

「公印省略」

22病防第10号の10
平成22年12月22日

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県病虫害防除所長

平成22年度病虫害発生予報第10号（1月）について

このことについて、病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

予報第10号

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	並 並	並 並	並 並
ナス	すすかび病 ミナミキイロアザミウマ	やや少 やや多	並 やや多	並 やや多
トマト	葉かび病	少	やや少	並
キュウリ	うどんこ病	並	並	並
レタス	菌核病	やや多	やや多	やや多
野菜共通	コナジラミ類	並	並	並

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率が50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率が50%です。2週目は、低い確率が60%です。3～4週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

***特に注意を要する事項**

2週目は気温が低くなるでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	30	20
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

(福岡管区気象台 平成22年12月17日発表抜粋)

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の()書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【野菜】

1 イチゴうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0.4% (平年 0.8%、前年 0.7%)

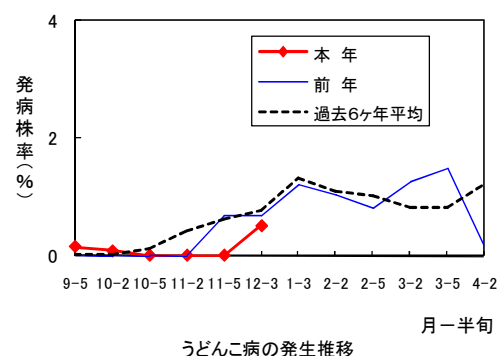
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は平年並とされている(-)。

(3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、下葉かぎ後、薬剤が葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。

イハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生株率 4.4% (平年 7.7%、前年 1.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は平年並とされている(-)。

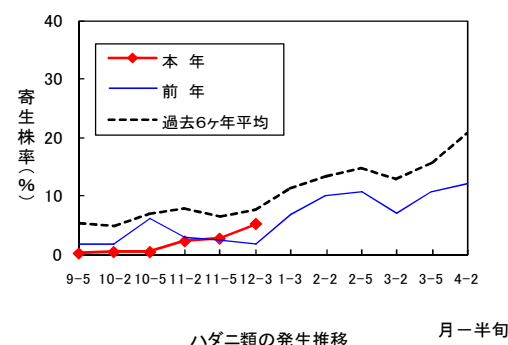
(3) 防除上の注意

ア 本種は、始めスポット的に発生し、地面に接した下位葉ほど寄生が多いので、葉かぎ等の管理作業時によく観察し、発生を認めたら早めに防除を行う。

イ 防除は摘葉後に行い、薬剤が葉裏にも十分にかかるよう散布する。

ウ 摘葉や除草した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。

エ カブリダニ類を放飼しているほ場では、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布する。



3 ナスすすかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(－)。

発病葉率 1.9% (平年 8.7%、前年 2.1%)

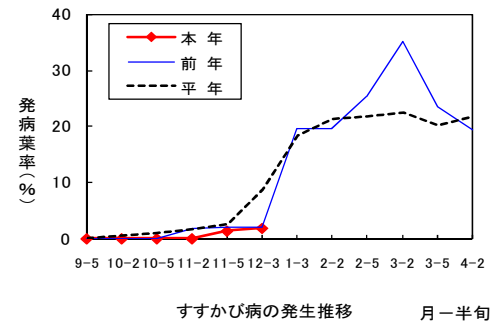
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は平年並とされている(－)。

(3) 防除上の注意

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



4 ナスのミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査結果、発生量は平年よりやや多かった(+)。

寄生葉率 32.0% (平年 10.5%、前年 28.8%)

被害果率 0.9% (平年 0.7%、前年 0.9%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は平年並とされている(－)。

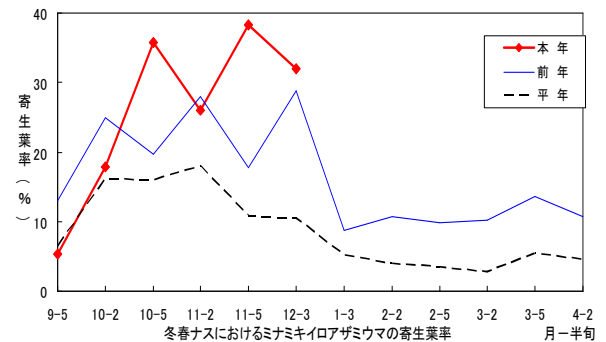
(3) 防除上の注意

ア 葉裏の寄生が多いので、薬剤が葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。

多発した場合は、約1週間後に再度薬剤散布を行う。

イ ほ場内外の雑草を除去し、害虫の生息、増殖源を絶つ。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



5 トマト葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

発病葉率 0% (平年 2.3%、前年 0.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は平年並とされている(－)。

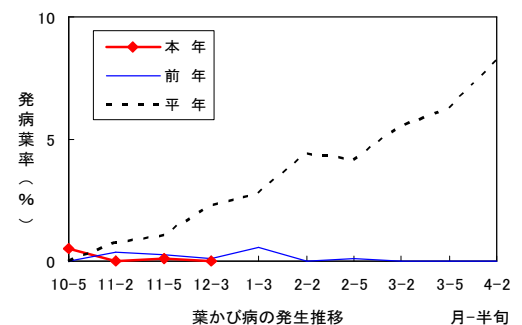
(3) 防除上の注意

ア 薬剤は葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、多湿にならないように管理する。

ウ 肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。

エ 抵抗性品種を栽培しているほ場でも、葉かび病の発生に注意し、すすかび病の防除も兼ねて予防的な薬剤散布を行う。



6 キュウリうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量： 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

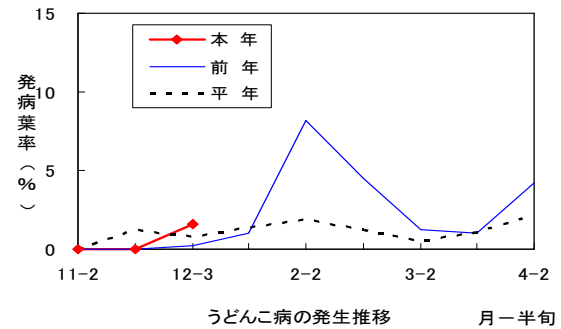
発病葉率 1.6%（平年 0.8%、前年 0.2%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は平年並とされている（-）。

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉はできる限り除去するとともに、薬剤は葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 窒素肥料の多施用は本病の発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



7 レタス菌核病

(1) 予報の内容

発生量： 平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった（+）。

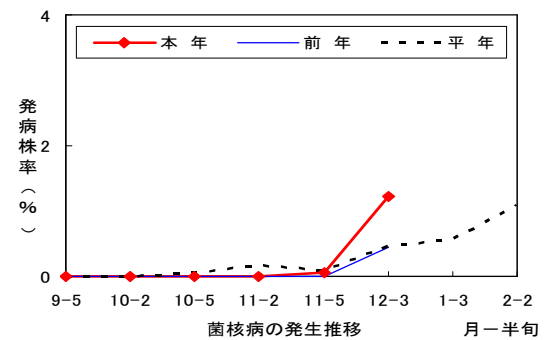
発病株率 1.2%（平年 0.5%、前年 0.4%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は平年並とされている（-）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ビニル被覆後は換気を行い、トンネル内が高温多湿にならない管理を行う。

イ 被害株はほ場内に放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。



8 コナジラミ類（野菜共通）

(1) 予報の内容

発生量： 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査結果、発生量は平年並であった（±）。

ナス寄生葉率 5.8%（平年 13.2%、前年 19.8%）

トマト寄生葉率 1.6%（平年 1.2%、前年 0.9%）

キュウリ寄生葉率 0.4%（平年 0.2%、前年 0.2%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は平年並とされている（-）。

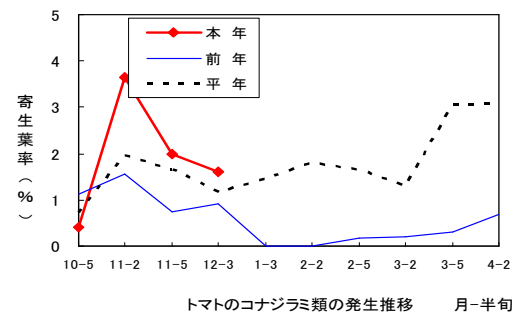
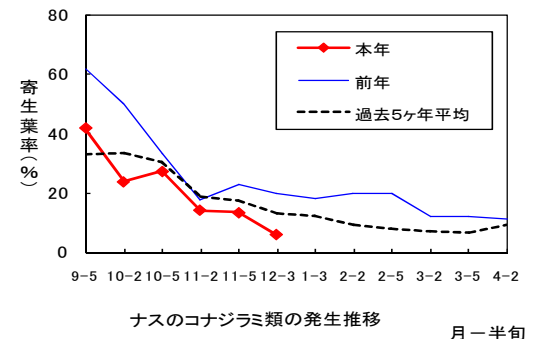
(3) 防除上の注意

ア タバココナジラミ類はトマト黄化葉巻病（TYLCV）やキュウリ退緑黄化病（CCYV）の媒介虫なので、早期発見に努め、防除を徹底する。

イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉を除去し、施設内の密度を下げるとともに、葉裏の寄生が多いので、薬剤は葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息、増殖源を絶つ。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
イチゴ 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> 罹病果は見つけ次第除去する。 また、下葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。
ナス うどんこ病 灰色かび病	やや少 やや少	並 並	並 並	<ul style="list-style-type: none"> 罹病葉や罹病果実は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
トマト 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> 開花後の萎れた花弁は、伝染源となるので取り除く。
キュウリ べと病 灰色かび病 褐斑病	やや少 並 少	並 並 やや少	並 並 やや少	<ul style="list-style-type: none"> 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長する 開花後の萎れた花弁に、灰色のかびを認めたら防除を開始する。 初期防除を徹底する。
キャベツ 菌核病 黒腐病 コナガ	やや少 やや少 やや少	やや少 やや少 やや少	やや少 並 やや少	<ul style="list-style-type: none"> 罹病株はただちに抜きとり処分する。 形成された菌核は、ほ場へ残さないよう、ほ場衛生に努める。
レタス 灰色かび病 腐敗病	並 並	並 並	やや多 並	<ul style="list-style-type: none"> トンネル内が高温多湿にならない管理を行う。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故を防止することを目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。散布者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などの※ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。
(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

2 飛散防止対策の徹底

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布年月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除について
ホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jppn.ne.jp